

# 令和4年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

## 【生産工学部】

### 1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
<p>令和4年12月2日</p> <p>令和4年12月5日</p> <p>令和4年12月19日</p>	<p>CHAmmitでは、3グループに分かれて各々で議論がなされたこともあり、情報共有および意見の集約を行うために意見交換会の場を設けることにいたしました。そこで、参加者15名に対し、意見交換会の日程調整をしたところ、全員が一緒に集まれる機会がなかったことから以下の3日に分けて実施いたしました。なお、開催日の候補を確保して学生の参加を優先するため、教職員側はCHAmmitに参加した教員1名がファシリテーターとして意見交換会に参加しております（下記の人数は学生のみ）。</p> <p>12月2日(金) 5限 (16:20~17:50) 2名</p> <p>12月5日(月) 3限 (13:00~14:30) 1名 (体調不良で欠席多)</p> <p>12月19日(月) 3限・4限 (13:20~14:50) 4名</p> <p>※参加できなかった学生もメールで情報共有を行い、意見をもらっております。</p> <p>上記の意見交換会で集約された提案内容を、教員3名と職員5名が集まり、12月21日(水) 9:30~11:00に集まり協議し、その後のメールでの調整の後、下記の提案書の回答が作成いたしました。</p>

### 2 学部提案書の対応について

#### 学部を「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
<p>授業の質を高めるために授業時間を有効活用するための手法を教員間で共有したり、講習などで身につけたりする</p> <p>『フィードバックをちゃんとしてくれる先生や熱意がある先生を増やして欲しい』</p>		○		<p>例年、FD研修会を開催し、教員の指導力を高めるワークショップなどを開催しております。令和4年度は「学生の自律性を引き出す授業設計」と「学生の学びを促す学修評価」のワークショップを実施いたしました。また、学部全体の教育力向上のために教育貢献賞を設け、教育における顕著な功績を称えるとともに、その手法について講演会などで共有している状況です。</p> <p>教育開発センター：<a href="https://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/activities/faculty-development/center/">https://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/activities/faculty-development/center/</a></p> <p>しかしながら、諸事情で取り組みに参加できていない教員がいることも伺えることから、研修会の開催回数を増やしたり、録画視聴できたりと参加できる機会を増やしてまいります。また、教員を評価する項目には教育業績も設けられていることを改めて周知し、意識付けを行いたいと考えます。</p> <p>なお、このような取り組みがなされていることを知らない学生も多いことから、学外を含めて学部における取り組みの公開方法を見直してまいります。</p> <p>また、質問の対応や成績の開示など、フィードバックが足りていない状況も発生しているようであるので、教員への周知を行っていきます。なお、教員だけでは十分に対応しきれない授業中の質問については、院生のTAのサポートの拡充を検討し、きめ細かな対応を目指してまいります。その際、学生版の教育貢献賞を設けたり、教職を目指す学生が実践する場としたりなど、制度が有効に働くような仕組み作りもしてまいります。</p>
<p>DX化が進む中、Wifiが繋がりにくい状況にあるのでネット環境の改善を行う。</p> <p>また、パソコンを利用して課題を作成することが多いが、教員が思っているよりもWord, Excel, PowerPointなどに慣れていないので、サポート体制（アドバイザーの設置、利用方法の動画など）を整えて欲しい。</p>		○		<p>生産工学部では、全教室でWifiがつながるよう環境整備を行っております。しかしながら、経年劣化により、古い機器もあるため、年次計画にもとづき、新しい機器への改善を行うことで、Wifi環境の改善を行います。</p> <p>また、学生がパソコンを必携し始めたころは、情報リテラシーおよび演習という科目で、WordやExcelなどの使い方も扱っていましたが、パソコンがありふれたツールになったこと、情報化社会において知っておくべき事柄が増えたことによってアプリの使い方については削減されました。しかしながら、パソコンからスマートフォンへ学生の利用端末が変化したことを考えると、改めてパソコンのアプリについては、現状にあったサポートが必要と考えます。その際には、学生から挙がっている「授業で実施するほどではないが、WordやExcelなどで具体的な作成例を示して欲しい」との声を反映させた形で動画や冊子の検討を進めます。なお、早急な対応として、包括契約を結んでいるマイクロソフト社が提供する動画などをまとめHP作成を行います。</p>

令和4年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

【生産工学部】

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
<p>学部および教員と意見交換できる場として、会議に学生が参加したり、チャットルームの開設や目安箱の設置を行う</p> <p>『学生からの意見を吸い上げるためには、学生FD団体等をサポートしたり、学生が参画しやすい工夫をして欲しい』</p>		○		<p>生産工学部のホームページへ学部長への意見箱を設置し、学生からの意見を吸い上げるための場を設けております。</p> <p><a href="https://www.cit.nihon-u.ac.jp/news/39059.html">https://www.cit.nihon-u.ac.jp/news/39059.html</a></p> <p>これに加え、学生が活躍できる学部を目指し、既にある学生FD活動推進プロジェクト以外にも、学生が学部の運営に関われる機会を検討しております。それらに属するメンバーが関連する教職員の委員会に参加し、直接意見を述べる仕組みも合わせて検討していきます。その第一歩として、学生FD活動推進プロジェクトのメンバーがFD専門委員会に参加することを検討しておりましたが、コロナ禍のため委員会がオンライン化されたことで見送りとなっておりました。対面で委員会が実施されるようになってまいりましたので、学生の委員会への参加を実現いたします。</p> <p>また、学生FD推進プロジェクトが開催する「しゃべり場」では、授業改善および学習改善に向けて、学生と教職員が参加して議論を行ってまいりました。しかし、意見交換の場において、学生FD活動推進プロジェクト並びに活動を知らない学生が多いとの声もあり、ポータルシステムや学内のポスター掲示などで認知度はかなり高まってきたところでしたが、さらに認知度を高めるためには、学生に情報が確実に伝わる学部メールや授業内での案内や学科のClassroomなどの広報、さらに活動内容の常設展示による周知も学生FD活動推進プロジェクトを中心に検討していきます。そして、学生FD活動推進プロジェクトの活動を中心に、チャットや目安箱なども含めて、学生と意見交換のできる場を学生とともに模索してまいります。</p> <p>この他、新型コロナウイルスの影響により中止されておりました学生と教員とが一緒に参加する新入生オリエンテーションやスポーツ大会なども対面で実施されるようになってきましたので、学生が教員と意見交換できる機会がコロナ禍以前に戻り、さらなる活気が生まれることを期待しております。</p>
<p>他学科との交流が少ないので、他学科と一緒に主体的に受講できる科目を設ける。</p> <p>また、アクティブラーニングを実践するにあたり、グループワーク用に机や椅子のレイアウトが自由に行え、大人数にも対応できる教室を用意する。</p>		○		<p>日本大学全体で共通に実施されている「自主創造の基礎」および生産工学部の全学科で共通に実施されている「生産工学の基礎」に加え、令和4年度から始まった横断科目「生産工学とSDGs」、「エンジニアリングスキル」、「工学基盤演習」においては、学科混在のTBLによる生産工学部学生としての素地作りを行っております。</p> <p>また、上級生科目としては、来年度より「教養探求」が始まり、学科混在による主体的な学びの機会を更に増やします。</p> <p>そして、既存の教養科目については、1年生および2年生で履修が終わってしまう状況ではありますが、対面授業であれば同じ教室にいただけで交流の機会となるとの学生の意見もございましたので、学年・学科を問わずに広く履修できるようにして欲しいという要望を実現させるためのカリキュラムを検討してまいります。</p> <p>アクティブラーニングの設備については、各学科棟および図書館などにおいて、ゼミナールやグループ活動などのための部屋を整備しておりますが、今後は授業でも活用できるようなレイアウトを自由に変えられる机や椅子へのリプレースを検討してまいります。</p>

令和4年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

【生産工学部】

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
学年を超えた交流が少ないので、研究室ツアーなどにより上級生と気軽に話せる環境づくりを行う		○		生産工学部にて、「低学年で研究に触れる場の提供に向けた検討についての具体策」として、以下の3項目を検討しております。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・低年次学生のための研究室体験プログラム</li> <li>・大学院生と学部1年生の交流イベント</li> <li>・1年次設置科目の授業内における研究室見学・研究紹介</li> </ul> これらの実現により、学年を超えた交流のきっかけが生まれると考えております。なお、授業内で大学院生がチラシを配ったりして研究室のアナウンスを行い、実際に実験の見学会を実施した例もあるとのことなので、先行例として上記の検討の際に役立てていきます。 また、研究室を自習室のように、研究室外の学生に開放していくことを検討していきます。ただし、自由な出入りについては管理の上で難しいため、利用時間を設けることや、その周知方法などを検討し、低学年から親しみやすい研究室の雰囲気づくりを行ってまいります。 この他、研究室の情報としては、研究だけでなく、就職情報も重要との声もありましたので、学生のキャリアデザインに繋がる研究室における情報の展開も検討してまいります。
生産工学部内で、学生のしたいものづくりを募り、金銭的な補助を付けて完成させる。イメージとしては、大学院科目の生産工学特別演習である。		○		日本大学の自主創造プロジェクト（10万円以上～30万円程度）ほど大きくはないが、ちょっとしたものづくりの機会が欲しいとのことで、「エンジニアリングスキル」を開講し腕試しとして受講してもらい、さらなる挑戦として、ものづくりの拠点である未来工房を活用して実現してもらいたいと考えております。なお、金銭的な補助は、学部独自の取り組みとして平成19年度から「学生ものづくりプロジェクト支援」と1プロジェクト1件につき毎年150万円を上限として支給する制度がありましたが、令和元年度以降の申請が0件となり、令和4年度に廃止されております。学生のニーズを考慮し、未来工房の活用方法と合わせて検討してまいります。
祝日に授業を設けない。	○			CHAmmitでの意見を基に意見交換を行った際には、事前に授業日程が公開されているので、祝日に授業があっても問題ないとの声もある一方、家族などとの予定が合わず、イベントが計画できないので土曜日に授業を行ってほしいという声もあり、受け取り方が様々であることを認識いたしました。 なお、CHAmmitや意見交換会以外にも休みに関する学生からの声がありましたので、令和5年度はゴールデンウィークでの授業実施を見直しております。
休憩時間における教室移動が難しいので、移動が少なくて済むような教室配置を行ってほしい。	○			教室棟が37号館および39号館と別れており、学科棟だけでは授業の運用が難しいため、同じ建物内の移動のほか、教室棟の移動も必要になる状況が生じております。 そこで、授業教室の空き状況が分かれば、事前に教室に移動して待機できる人もいますので、移動の分散が可能との学生の提案がありました。しかしながら、学生が申し込んだ選択科目は全員を受け入れる仕組みから、想定人数を超過した際に、予定教室からの変更や時間割に現れない複数教室の利用、授業運用に合わせた教室の不定期利用などが生じております。そのため、空き状況が刻々と変わることから、システム構築が簡単にはできないことをご理解いただき、講義初回の早めの教室移動や自身での教室の空き状況の確認にご協力いただければ幸いです。 なお、空き教室については、自習およびオンライン授業などで気兼ねなく利用してください。

※令和5年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。

# 令和4年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

## 【生産工学部】

### 3 生産工学部から学生へのメッセージ

今年度の学生FD CHAmmitは、3年ぶりの対面（一部Web）開催となり、参加された皆様にとっては、他学部の学生や教職員と直接ふれ合い意見交換が出来たので、非常に有意義な体験をしたことと思います。学部提案書は、今回で3回目となり、学部を「理想の学部」にするためのご提案をご作成いただき、感謝申し上げます。また、学生FD活動推進プロジェクトメンバーとFD専門委員会の教職員とが、最終的な改善報告書をまとめていただいたことに重ねてお礼申し上げます。今回の提案8件に関しては、対応中が6件、対応済みが2件と回答させていただきました。対応中のいくつかは「交流」に関するもので、コロナ禍の状況もありますが、次年度から、規制も大きく緩和されることから、学部としても「交流」の場を積極的に企画していきたいと考えております。授業に関しては、学部におきましても色々なノウハウを、このコロナ禍で手にしています。ニューノーマルな授業を構築すべく、皆様の要望を取り入れながら、教育改善活動を進めて参ります。多くの皆様の声が、学部提案書に反映されることを願っております。